



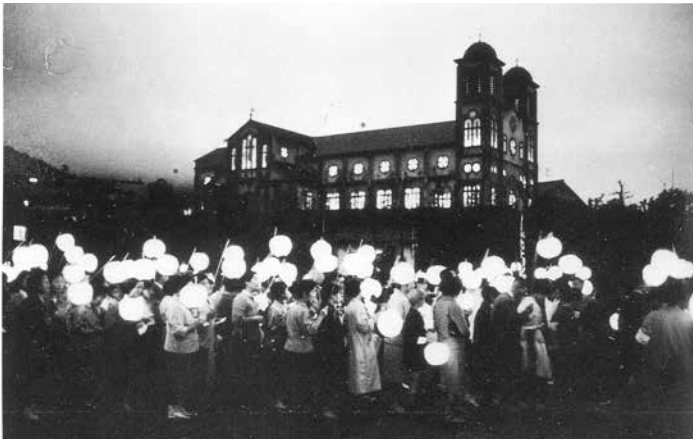
カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8113
長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
Tel. 095-843-3869
Fax 095-843-3417
振替口座 01880-5-2699
発行人
大 水 文 隆
印刷所
株式会社 藤木博英社

叙階式と選任式

叙階式		選任式	
日時	3月21日 (金) 16時	日時	3月20日 (木) 10時半
場所	浦上教会	場所	浦上教会

昨年1月15日に発足した「信徒発見150周年記念事業実行委員会」では、ミサを含む記念式典、記念メダイや記念誌などの製作、資料展や巡礼などの記念行事に向けて、12の部会が準備に取り組んでいる。今月号では、「まるちれす研究会」が中心となって執筆している記念誌の中から、日本二十六聖人列聖100周年を祝った1962年の項を抜粋・要約して紹介する。信徒発見100周年を3年後にひかえた日本の教会の姿は、記念することの意味を私たちに語ってくれる。

記念する教会



1962年6月9日、浦上を経て西坂に向かう巡礼者たち

のに信じる人は、幸いである」(ヨハネ20・29)。それでも多くのしるしを行ったのは、信仰を養い、希望を奮い立たせようとするキリストの慈しみに他ならない。今、旅する教会にも、同じキリストのまなざしが注がれている。

神が用意された出来事

神がなさることは、私たちには不思議に見える。しかし聖母マリアと共にすべてを心に納めて思い巡らすとき、出来事はしるしとなる。信徒発見100周年を3年後にひかえた1962年もまた、神が起こされた不思議なわざに彩られている。

①浦上教会を司教座聖堂に

山口愛次郎大司教は1962年1月1日付をもって、「浦上の無原罪の聖母聖堂を正式の長崎大司教座聖堂に指定する」と発表した。浦上教会が教区最大の聖堂であり、最も多くの信徒を有することなどを理由としてローマに申請を行い、認可が下りての発表であった。従来大司教座が置かれていた大浦天主堂は、準大司教座聖堂(プロカテドラリス)として存続することになった。救いの知らせを探し求めた人々が建てた浦上教会と、奇跡的な出会いの舞台となった大浦天主堂。2つの教会を結ぶ線を中心に、殉教者たちの祭壇となった西坂の丘がある。1865年、巡礼者たちがたどったこの道は、母親のもとへ招こうとする殉教者たちの声に満ちている。すがりつく我が子を愛おしむ母親のように、マリアは苦しむ教会と共にあった。信者たちはその記憶

をどめるかのように中町に教会を建て、殉教者の聖母にささげた。婦人よ、御覧なさい。あなたの子です」「見なさい。あなたの母です」(ヨハネ19・26、27)。日本の教会は、キリストのこの言葉をただひたすらに信じ、生きてきた。無原罪の聖母にささげられた浦上教会が大司教座聖堂とされたその出来事に、自分の足で立ち上ろうとする子どもたちの、母親への思いを見る。

②日本カトリック教会再建100周年

1862年1月12日、横浜の外人居留地に建てられた聖心聖堂の祝別式が、日本教区長ジラル神父の手で行われた。58年に5カ国と通商条約が結ばれたことにより日本の鎖国は終わったが、それに伴い、神奈川、長崎、函館、横浜が開港され、居留地には居留民のための礼拝堂が建立されることになった。44年5月1日、沖縄でフォルカード神父が日本宣教の仕事に聖母にささげから、18年後のことである。

このときフォルカード神父は、日本に聖堂が建てられる日が来たら、「この国を残らず、公にまた正式に無原罪の聖母の御保護の下におくべき」ことを祈ったが、ジラル教区長はその遺志を継いで、横浜天主堂の祝別後、日本を聖母の潔き御心の保護のもとに託することをローマに申請し、この年ピオ9世教皇から許可された。

以上の出来事を記念し、横浜教区は教会再建100周年を計画した。さらに日本司教団の同意を得て、日本カトリック教会再建100周年として全国的にその1年を祝うことになる。長崎での日本二十六聖人列聖100年祭も記念行事の一環とされることになった。

③大分・名古屋・新潟教区設立

④「旅」の最後の人

「ザビエルから現代に生きる私たちまで、生命と信仰によってつながれた大きな鎖。その一つひとつの輪には、証言者がしるしたキリストの姿が刻まれています。」

1962年4月7日、一人の女性が天に召された。カタリナ杉本ヤス、享年94。親

から受けた生命と信仰を、大切なものとして我が子と仲間たちに伝えた素朴な証言者である。彼女は『旅』生き残りの最後の人であった。

彼女の計報を伝える『カトリック教報』は、『旅』の意義について次のように語っている。『旅』は信仰のために全村総流罪になるといって、日本史上珍しいケースであるばかりでなく、浦上キリシタンが神への忠誠と自分の良心への忠実さを守り通した無抵抗の抵抗によって、明治政府もついに二百五十年つづいたキリシタン禁制を終結、日本の政治の中に信教の自由と良心の尊重という近代精神をもたらした点で尊い意義をもっている。ヤスさんの葬儀は九日教会葬をもって浦上天主堂で行われ中島万利師が美しい追悼説教をされた。」

教会の歴史はいつも、自らを「なんのとりえもない貧しい者」と公言してはばかりない人々によって紡がれている。

⑤日本二十六聖人列聖100年祭

「われ、苦しみのうちに主を呼び主に叫び奉れり。主は己が聖殿よりわが声を聞き、わが願いは、主のみ前にて、その耳に達せり。」最初の代牧司教座設置と26人の列聖から100年を迎えた日本の教会に、教皇ヨハネ23世はこの詩編から始まるメッセージを送った。その終わりは次の願いと祈りで締めくくられている。「ますます恩寵を増し、わが主にしかつ救い主にしてましますイエズス・キリストをますます知り奉ることを努めよ。今も永遠の日にも彼に栄光あれかし。アーメン。」

前年秋の司教団の決定により、日本二十六聖人列聖100年祭は再建100周年の一環として行われることになっていたが、長崎市の積極的な協力もあり、長崎教区と長崎市(列聖観光行事委員会)との共催で準備されている。行事の中心は、大浦、浦上、中町での司教座聖堂ミサを柱とする6月8日から10日までのトリドゥウム(3日間の祈り)であり、メキシコ、イスパニヤをはじめ、国内外から数千人の巡礼者が参加した。

1日目は、午前9時から大浦天主堂で山口愛次郎大司教司式による荘厳ミサが行われた。2日目は、午後5時半から浦上教会で松岡孫四郎司教(名古屋教区)司式による荘厳ミサが行われ、約5千人が祈りの時を過ごしている。同日夜、親愛幼稚園と丸尾中学校庭、県庁前の3カ所から出発した提灯行列は、午後9時ごろに西坂殉教地に到着した。この行列には、5月27日に京都を出発し、当日午後4時半ごろ時津に到着

した巡礼行進団も、浦上から合流している。西坂に集った7千人の巡礼者たちは、山口大司教の説教、巡礼行進団長の高谷義光師のあいさつ、聖歌によって二十六聖人の栄光をたたえた。

3日目は、午前9時から中町教会でアルフォンソ・エスカランザ司教(メキシコ)司式による荘厳ミサが行われ、イエズス会日本管区長ベトロ・アルベ師がイスパニヤ語と日本語で説教した。ミサ後、西坂に行列し、11時から殉教記念碑除幕式と資料館落成式が行われ、田川 務長崎市長がテープカット、山口大司教が祝別をした。午後1時から新築の市公会堂で市長招待のレセプション、夜7時から記念講演会が開催され、NHK解説委員室長藤瀬五郎氏と純心女子短大教授片岡弥吉氏の講演、メキシコ巡礼団による合唱と舞踊、聖マリア学院唱歌隊と純心女子学園音楽部の合唱があった。また西坂の聖フィリッポ聖堂では、10日午前0時から午後5時ごろまで連続ミサがささげられた。こうして3日にわたる殉教者賛仰と信仰によって結ばれた国際的親睦の愛の祭典は終わった。」

1949年のフランシスコ・ザビエル渡来400年祭にも匹敵する盛大な行事に、本来の意味が薄れることを危惧したのである。5月号の『カトリック教報』には「単なる祝いとどまってはならないのであって、これらの模範にならねばならないことが、第一の目的とされるべきである」とある。しかしそれは喜ばしくも杞憂に終わった。

「百年祭を顧みて強く感じられることは、第一に、宗教的敬虔さにあふれた記念祭に終始したことである。」その理由として、(1)準備に当たった関係者の苦心のおかげであると同時に、参加者すべてが記念祭の意味をよく理解し、一貫して祈りの精神で行動したこと、(2)百年祭が単なる教会の内輪の行事であるにとどまらず、社会に対しても聖人の真の偉大さを再認識させるよすがとなったこと、(3)報道機関が記念行事の準備や実施を詳細に、しかも善意と良識をもって報道し、さらに殉教者の宗教的文化的意義を解説したこと、などが挙げられている。

しかしその背後には、祈りほもとより、説教やさまざまな機会を通してなされたカテケージスと歴史の学びがあったことを忘れてはならない。キリストとその証人を学び、知り、祈る人の生き様に、福音宣教の神髄がある。イエズス・キリストをますます知り奉ることを努めよ。」教皇ヨハネ23世の願いを生きた信仰共同体は、このとき「一致のしるしであり道具」であった。

⑥イエズス会の再来崎

日本における初代教会を語る上で、イエズス会と西坂の丘を切り離すことはできない。イエズス会創立メンバーの一人であるフランシスコ・ザビエルによってもたらされた福音の種。その種が地に落ちて死に、多くの実りをもたらした最初の輝かしいしるしは、26人の殉教であった。西坂の丘では、二十六聖人のパウロ三木を含む45人のイエズス会員が命をささげている。

1906年、第25回イエズス会総会は、日本への宣教活動を再開することを決定した。その理由として「宣教に関する教皇への従順の特別の義務」「日本の使徒聖フランシスコ・ザビエルの継承」「キリストの御名のために日本において血を流した数多くの殉教者の声」を挙げている。

殉教者の声が長崎に届いたのは、58年7月下旬のことであった。山口大司教とアルベ管区長との話し合いの中で、二十六聖人記念碑建設の案が生まれた。イエズス会が記念碑建設を引き受けたとき、資料館の計画、さらにメキシコ司教団の要望に応じて聖フィリッポ聖堂の建設も加えられた。62年2月5日、二十六聖人の祝日に山口大司教によって祝別された聖堂と修道院は、346年ぶりの長崎におけるイエズス会の家であった。記念碑除幕式と資料館落成式は、列聖100年祭の一環として、6月10日に行われている。

再び長崎に根を下ろしたイエズス会。里脇浅次郎枢機卿は、その貢献と成果を、イエズス会再来崎25周年に際して送ったメッセージの中で次のように語っている。

「1962年は、長崎の教会にとって意義深い年でした。この年、26聖人列聖百年祭において、長崎の信徒の永年の念願であった記念碑の除幕式が行われ、その美しいプロンズ像は日本をはじめ、多くの国々に殉教者の気高い精神を述べ伝えていきます。同年、山口大司教様の依頼によって、再びイエズス会が来崎し、西坂の殉教地の一面に資料館、修道院、および聖フィリッポ聖堂を建てました。その後、立山に黙想の家、本原に学生センターを開設し、長崎教区の宣教と司牧の面で大きな貢献をして来しました。」

⑦高山右近顕彰の聖堂を祝別

⑧第2バチカン公会議の開会

*引用参照は主に『カトリック教報』『長崎イエズス会25年のあゆみ』

信徒発見150周年と高山右近列福に向けて
これだけのことは知ってほしい②

ミゼリコルジアの精神を受け継ごう

大阪教区司祭 川邨 裕明

2013年12月9日から13日まで、東日本大震災被災地を訪問しました。私が担当している大阪教区の広報「大阪カトリック時報」の取材でした。今回の目的は、3周年を迎える被災地の状況をレポートすることでした。岩手県大船渡市をベースに、北は岩手県久慈市から南は福島県相馬市まで、南北に広がる被災地を走り回りました。被災地をひとことと表現することは不可能でしょう。地域ごとの状況には違いがあります。瓦礫の撤去が終わり地盤沈下した土地のかさ上げが行われている一方、震災当時の姿のまま止まっているところもあります。財力のある人は仮設を出て、新しい生活へ一歩を踏み出しています。復興住宅の建設が遅れて、いつまで仮設にとどまらなければならぬかわからない状況に疲れを感じている人もいます。失ったものの大きさにうちひしがれる人がいますし、震災をきっかけに新しいことに挑戦しようとしている人がいます。知れば知るほど、状況の複雑さに驚き、何をどうすればよいかわからないでしまします。

被災地で働くボランティア
長崎教会管区が支援している大槌ベース

に先立って
松田聡史師
(桐小教区
主任)は、
2人の墓のそばに設置された記念プレートに祝別し、信仰の先輩の努力に敬意を表した。その後、ロザリオを唱えながら聖堂まで行列した。

桐で信仰伝承記念ミサ

信徒発見150周年に向けて

昨年12月8日(日)午後4時から、上五島地区・桐小教区主催で、信徒発見150年に向け「先人からの信仰伝承記念ミサ」が行われた。

桐教会の墓地には、上五島の信徒発見に大きな役割を果たした桐ノ浦出身のガスバル与作(下村鉄之助)と下五島岐宿村姫島出身のミカエル清川沢次郎の墓がある。ミサ

に着いたのは午後4時頃、東北の夜の訪れは早く、すでに宵闇が迫っていました。ベースの中では、一日の振り返りを行うミーティングが行われていました。その合間を縫って、お話を聞きました。ちょうどクリスマスシーズンなので、クリスマス会を仮設住宅に出前しているとのことでした。手作りの着ぐるみを着用して、仮設住宅の方々を盛り上げるボランティアの姿が写った写真を見せていただきました。「カリタスさん」と呼ばれているボランティアの働きには本当に頭が下がります。目の前にいる人と向き合ってその人の必要を感じ取りながら、共に歩もうとしているからです。これは、口で言うほど簡単なことではありません。

1995年の阪神淡路大震災は、私が東京カトリック神学院の受験を終えた次の日、1月17日に起きました。神学校への入学が決まった私は、ボランティアに参加しました。ボランティアの活動が終了した後も、最後まで関わり続けてくださったのは、カトリック信者でした。今回も、被災地に最後までとどまって復興への道のりを同伴していくのは、カリタスジャパンを中心とした日本のカトリック教会だと確信しています。

強い思いが重なり合っ
て信徒発見の奇跡が起き
ました。浦上の信徒発見
から1カ月半後には、ガ
スバル与作らの尽力で上
五島の信徒も復活しまし
た。信仰の恩人たちに感
謝し、この信仰を誇りを
持つて次の世代に伝えま
しょう。自分に何ができ
るかを考え、生活の中で
表現しましょう」と力強
く呼び掛けた。



らせたいというプチジャ
ン神父様や宣教師たちの
強い思いと、信仰を自由
に表現して生きていきたく
というキリシタンたち

奉仕活動の源流 ミゼリコルジア

日本のカトリック教会におけるボランティア活動は、大震災支援から始まったわけではありません。その源流をたどれば、イエスご自身にまで遡ることができると、⑦生きている人、死んだ人、自分に反対する者のために神に祈ることがあげられています。ミゼリコルジアの組では、「慈悲の所作」をもとに活動が組み立てられています。

ミゼリコルジアの組の運動をフーベル・ト・チスリック神父さんの研究(「キリシタンの心」1996年 聖母文庫)から見えてみましょう。日本にやってきた宣教師たちは、初めから熱心な信仰生活のほかその実践として隣人愛の必要を教え、信者たちを指導していました。ミゼリコルジアの運動が日本で始まったのは1570年頃であり、83年には長崎で正式に創設されたとの記録(イエズス会年報)が残っています。

日本のミゼリコルジア会則は残っていませんが、キリシタン時代の公教要理であった「ドナリナ・キリシタン」の第11章に「慈悲の所作」が残されており、それを基本としていたことは間違いないです。「慈悲の所作」は14あり、7つの肉体的慈善事業と7つの霊的慈善事業に分かれています。前者には①飢えていいる人に食事を与え、②渇いた人に飲み物を与え、③服を着ていない人に服を与える、④病人と囚人を見舞うこと、⑤旅人に宿を貸す、⑥囚われ人の身元を引き受ける、⑦葬式を執り行うことがあげられています。後者には、①良い意見を述べること、②正しい道を教える、③悲しんでいる人を慰める、④とがのある人をいさめる、⑤恥を受けたことを赦す、⑥隣人の過ちや不足を赦すこと、⑦生きている人、死んだ人、自分に反対する者のために神に祈ることがあげられています。ミゼリコルジアの組では、「慈悲の所作」をもとに活動が組み立てられています。

高山右近の取り組み

ミゼリコルジアの組に

熱心に取り組んだのは、日本のカトリック教会が列聖列福に取り組んでいるユースト高山右近とその父、ダリヨ飛騨守でした。右近親子が建設した高槻教会では、祈りと学びと同時に教えの実践も大切にされました。高槻教会では、毎年4人の執事を選んでいました。これは教会委員のようでもあり、ミゼリコルジアの組の組頭でもあったのではないかと考えられます。執事の筆頭はいつもダリヨでした。ダリヨは教徒のミゼリコルジアの支部を高槻に作ったのでした。

右近もまた、父ダリヨの実践に倣って、戦死者の家族を救済すること、孤児、寡婦たちを自分の子どもや親に対するような愛で大切にしました。戦国時代という実力闘争の時代、封建階級社会であった時代に、貧しい人々や、すべての不幸な人にも、人間としての最高の価値を認め、キリストに倣う信仰から出た人間平等の思想に基づいて、民主的な組織を作って愛の実践がなされていたこと、しかもそれが城主親子によって行われていたことは注目に値します。

フロイスの記録によると、高山親子は、教会が身分や貧富にかかわらず立派な葬式を行うことを示そうと考え、葬送に使う特別な飾り布を製作しました。それだけではなく、ある貧しいキリシタンが亡くなった時、領主高山右近とダ

お告げ終生誓願式

1月13日、お告げのマ

リア修道会本部聖堂にて、高見三明大司教主司式のもと54人の司祭と約300人の参列者が見守る中、3人の姉妹たちの終生誓願式が行われた。

宣立した姉妹は、「一つとなつて歩んでくださる主に自身を委ね、これまで気付かせていただいた多くの恵みを人々と分かち合えるよう、神様が自由に使ってくださる身



軽な道具であり続けたい」とあいさつの中で述べた。
姉妹たちは終生誓願に向かう一年の始まりに、み言葉「主よ、わたしたちはだれのところに行きましようか」を選び、弱さのうちにも何度も繰り返し主のもとに立ち戻る聖ペトロの姿を見つめながらこの日を迎えた。
指輪を受け、大きな拍手の中、主と結ばれた喜びに皆が笑顔に包まれた。
終生誓願宣立者
マリア・インマクラータ 岩田架耶乃(湯江)
マリア・マグダレナ 永瀬みづえ(古江)
マリア 山頭 陽子(紐差)

リヨが葬儀委員長を買って出て、城下の武士、庶民にも参列を望みました。人々が参列を見ると、右近親子が棺を担っているではありませんか。領主が名もない貧民の一人に対して払った敬意と、愛の行いに参列した人々は心打たれたのでした。そして、武士たちは争うかのように、墓穴を掘り始め、みんな葬ったのです。その後、高槻城下では領民の葬儀に武士たちが手助けすることが慣習になったのです。

キリストへの愛は、形骸化した社会体制を打ち破ることがあります。右近親子は身をもって人間平等を示し、封建的特権意識を突き抜けてしまったのです。
トを着ていました。衛生面もありますが、身分や誰であるかを隠すためだったのです。日本に入ってきたミゼリコルジアは、ポルトガルとアジアを経由したものと考えられます。
2013年10月、私はイタリアに赴き、ミゼリコルジアの発祥の地、フィレンツェをはじめ今も活動が盛んなプラトの街を訪問しました。イタリアには70万人以上の会員が存在し、発祥当時の精神と活動を引き継いでいることを確認しました。プラトではいまでも、救急車が来たとは言わず、「ミゼリコルジアが来た」と言うそうです。イタリアで起きた大地震の支援のためにイタリア全土から集まったミゼリコルジアの救援基地で忙しく立ち働く会員の姿を見つめながら、日本においてもボランティアの原点であるミゼリコルジアの組の精神と活動をしっかりと受け継がなくてはと思いました。

受け継ぎたい
ミゼリコルジアの精神と活動
ミゼリコルジアは、1240年にイタリアのフィレンツェでルカ・ボッシ(Pietro di Luca Bossi)によって始められた信者団体です。創立者は大規模な組織を作るつもりはありませんでした。会員相互の援助と病人の世話と埋葬式の執行を目的にしています。が、会が盛んになって、教会から活動が正式に認められました。自分から進んで無報酬で、貧しい人と病人の世話、葬儀、様々な福祉活動に当番制で参加する会員は、活動の間、全身を隠す黒いマン

生き方の柱なのです。

ご先祖に心より感謝を・・・

材石 治明

長崎本店 長崎市城栄町13-1 電話 (095) 846-3598
大村店 大村市民霊園内 電話 (0957) 50-3008

白蟻調査無料・駆除予防工事5ヶ年保証付
白蟻防除施工士

大田白蟻研究所

代表者 マリア 大島 睦子
(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号
長崎 095-822-8436
FAX 095-822-8488

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網

エテルナ・ワコー(株)

代表取締役 ミカエル 溝口 美義
〒858-0926 佐世保市大湯町586
TEL (0956) 47-4380

パウロ家族創立100年

連続講演会 in 長崎

催した。パウロ家族とは、イタリア人司祭、福者ヤコブ・アルベリオーネ神父によって1914年8月20日に創立された聖パウロ修道会を始めとする、聖パウロ女子修道会、師イエズス修道女会、聖マリア・アンヌンチアータ会、聖パウロ協力者会、その他5つの修道会・在俗会の総称である。今回の講演会は、修道会主催の講演会であったにもかかわらず、追加席を設けるほど多くの参加者があった。



1月13日、カトリックセンターを会場に、今年、創立100周年を迎えるパウロ家族が、「キリストのみことばをすべての人へー新しい福音宣教」と題して、聖パウロ修道会の鈴木信一管区長(写真)を講師に講演会を開

ことを例に、私たち自身も新しい福音宣教のために、死ぬ寸前までキリストのうちに新しくなることに挑戦し続けることの必要性を強調した。第2部は社会的コミュニケーション手段を用いて福音宣教するパウロ家族の使命をテーマに、時代における創立者アルベリオーネの「新しさ」を説明しながら、それに適応できていないパウロ家族の現実を自省し、「福音宣教」における「新しさ」へ各自が努力する大切さを日常的なたとえを用いて分かりやすく語った。

この講演会は7月まで毎月1回、会場を変えて行われる。今回は澤田豊成師(パウロ会)を講師に2月15日、福岡の大名町教会で開催される。

修女連 新年の集い

三明大司教様よりいただきました。

1月4日(土)、カトリックセンターホールにおいて、教区修道女連盟による「新年の集い」が開催されました。毎年この時期に開催されているが、長崎教区の一信徒としてまた修道者として、今年一年を教会と共に歩むための示唆を高見

約120人の修道女が参加し、まず修女連の指導司祭である三村誠一神父様よりご挨拶をいただき、その後高見大司教様が、大村純忠・高山右近・信徒発見などの歴史的観点からの信仰を語り、今年から本格的に始まる教区シノドスについて、公会議後50年が過ぎその教えが浸透しているのか、長崎はこの教えを実践できているか、この先どうあるべきか皆で考えたいとおっしゃいました。

私たち修道女も公会議の教えを再確認し、長崎の教会の刷新へ向かいながら心を合わせ、歩みを共にしようと決意し、ごミサをささげていただきました。

再び家庭を振り返る ⑭

教区家庭特別委員会 福島光明

ヨハネ・パウロ2世教皇様は、使徒的勧告「家庭ー愛といのちのきずな」の中で、「キリスト者の親はその尊厳と使命に基づいて、子どもが神の神秘を少しずつ見だし、神と個人的に对话ができるように導きながら祈りを教える特別な責任をもっています」(60)と説いています。

は、「戦後の夕食の後片づけを終え、ひと息ついた母親の「いのり」というかけ声で、家庭祭壇の前に家族全員が集められ、祈らされたことを。小さい家で、一つの子どもの部屋を兄弟2人か3人で使い、テレビも家に一台しかありませんでしたから、聞こえないふりして自分だけさぼるなんてことはできませんでした。祈りの先唱は子どもが交代で順番にさせられていました。「いのり」というかけ声は、テレビ番組の途中であらうと、おかまは将来何か問題にぶつかったとしても「ふるさと」のような、戻っていく場所、祈る心のあるものに、親子での口げんかもさをもつことになりました。「家庭に祈りを」と願います。

これは親子の会話があり、家族というものを意識できる貴重な時間だったように思います。同著「家庭」の中で、ヨハネ・パウロ2世教皇様が「子どもと一緒に祈ることによって親は親としての祭司職を実践しながら子どもの心のもとも深いところ強い印象を与え、将来どんなことが起こっても消えることのないしるしを残すことができる」(60)と説いているように、親と一緒に祈った子どもや祈る親のうしろ姿を見ていた子どもは、将来何か問題にぶつかったとしても「ふるさと」のような、戻っていく場所、祈る心のあるものに、親子での口げんかもさをもつことになりました。「家庭に祈りを」と願います。

最後のお願いー「提言案」へのご意見を

「教区シノドス」開催が近づいてきた。シノドスで審議される「提言案」作成過程も最終段階に入った。中央委員会は「提言案」決定版の最終候補として仮「提言案」を作成し、これを「カトリック教報」前号に掲載し、読者の皆さまに、批判、改善、削除、追加、同感など自由なご意見を寄せてくださるようお願いした。計画では2月末をもってこの意見公募期間を終了し、中央委員会は仮「提言案」に対して寄せられたご意見を基に必要な補充や改善を加えながら最終「提言案」作成に入ることになっている。できるだけ良い「提言案」を作成しなければならぬので、中央委員会委員長として読者の皆さまにもう一度仮「提言案」に目を通し、「2月末までに」ご自由なご意見を中央委員会にお送りくださるようあらためてお願いする。どのような内容であっても「教区の善益」を願うところから出た意見として受けとめたい。

「教区シノドス」について「教会法」の定め

「教区シノドス」をどのように開催するかは「教会法」が細かに規定している。自由に開催される無基準な集会などではない。理論上は「教区シノドス」は「教区の全信者」が参加するものとされるが、実際上の「会議活動」としては「教区」の「代表者」

シノドス間近に迫る

連載・教区シノドスから恵みの年へ ⑥

によるものである。すなわち「教区シノドス」は「教区代表者会議」とも呼ばれるのである。この代表者は「シノドス議員」と呼ばれる。いよいよ今年の5月4日から開かれる「長崎教区シノドス」の「議員」名は後ほど「カトリック教報」で正式に発表されることになっているが、それに先立ち読者の皆さまに「教区シノドス」の意味をよく理解していただくため、本号では「シノドス議員」についての「教会法」の規定(第460条、第468条)について簡単に説明しておきたい。

a 誰が「シノドス議員」に

誰を代表者にするかは、シノドス招集者である教区司教が決定するが、その際、司教は「教会法」の規定に従うべきものとされている。「教会法」は具体的にこの内容を規定している。教区司教が選ぶことを「教会法」によって義務づけられているものは多い。しかし、「教会法」が教区司教自らの判断によって教区の実情に照らし、必要と考えられる微修正や調節を行う余地を認めている場合も少しはある。いず

b 「シノドス議員」の重大な責任

「教区シノドス」の開会式において教区司教は各議員に任命書を授与する。このときからその者は正式の議員とされる。議員全員、司教と参列者の前で信仰宣言をし、聖書に手をかざして「教区シノドス」任務遂行誓約を行わねばならない。これらのことから明らかに「教会法」は「シノドス議員」に選ばれた者が自分の重大な責任を自覚しなければならぬことや、熱心に会議に参加する義務があることを強調するのである。

c 教区全信者の参加ー祈りと関心

このような重大な責任を負う「シノドス議員」の会議に教区全信者が聖霊の助けを願う熱心な祈りをもつて参加することが求められるのは当然である。教区全信者の信仰に基づく祈りと「教区シノドス」の議論の内容及議論の進展に対する強い関心こそが、教区挙げてのこの大事業の成功を約束することを「教会法」は重視するのである。

教区シノドス中央委員会

委員長 山脇守



マリア 山崎シズ修道女 (お告げのマリア修道会)

昨年12月18日、新牧野町の介護老人保健施設カリタスにて帰天。87歳。長崎市黒崎生まれ。1946年1月20日黒崎修道院入会。57年11月21日初誓願宣立、64年3月14日終生誓願宣立。主に調理・農耕にいきしみ、若いころ、宮崎にて津にて、老人ホームや修道院の調理、農耕などに従事する。言葉少なく黙々と働く姿は、後輩姉妹たちにとってよき模範となる。晩年はお祈り係として奉仕。葬儀・告別式は12月19日、黒崎教会で行われた。



マリア 原口イマ修道女 (お告げのマリア修道会)

1月10日、新牧野町の介護老人保健施設カリタスにて帰天。90歳。長崎市東出津町生まれ。1950年2月26日出津修道院入会。58年3月24日初誓願宣立、64年3月14日終生誓願宣立。カトリックセンターに4年間奉仕した他は、出



マリア・ゴレットティ 松崎ナ・エ修道女 (長崎純心聖母会)

病院にて帰天。85歳。佐世保市生まれ。1946年学生志願者として本会に入会。54年修練院入所、61年初誓願、70年終生誓願宣立。初誓願宣立後は、川内(鹿児島)、修道会本部、島原、佐世保、川棚、恵の丘、西町などの各修道院へ派遣された。病気がちで入退院を繰り返した。

新刊良書

★ユスト高山右近 いま、降りていく人へ



熾烈な競争社会の中、もって生まれた才能で頭角を現し、ときの権力者たちが一目を置くほどの戦国大名となった高山右近。しかし彼は、周囲の思惑や期待とはまったく違った生き方を見せていく。昇りつめたかに見える人が、降りていく生き方の中で、それまで誰も見たこともない不思議な輝きを放つ……。利休も官兵衛も利家も、その生き方に憧れた。競い合う時代、あえて降りていく道をたどったユスト高山右近。次代を模索する人たちが、今また右近を追いつめられている。ドン・ボスコ社、税別700円。

ケネディ米大使、浦上を訪問



説明した。続いて大使は、聖堂内で県宗教者懇話会会長の野下神父や会員らとあいさつを交わし、記念撮影。被爆した聖具カリスを、同教会主任の小島栄神父が手に取って差し出すと、受け取ってこれを見つめる場面も。原爆に関しては特に言及せず、終始、静かに聖堂内を巡った。被爆マリヤ小聖堂では、大司教が被爆マリヤが見つかった経緯を話し、一緒にアヴェ・マリアの祈りを唱えた。祈りの後、大使は大司教に願ひ自らのロザリオを祝福してもらっていた。長崎日米協会、長崎・セントポール姉妹都市委員会、関係者らとも会い、浦上教会を後にした。

野下神父は、「5年前オバマ大統領の第1期就任の際、私は広島・長崎の宗教者を代表して、大統領就任の喜びと、世界

カリタス大槌ベースボランティア募集

- 3月13日(木)～19日(水) (2/25 締切)
- 4月10日(木)～16日(水) (3/26 締切)
- 5月15日(木)～21日(水) (4/30 締切)

定員 10 名程度。お申し込みは所属小教区へ。お問い合わせは、教区本部事務局(渡辺)まで。
TEL 095-842-4450 FAX 095-842-4460



日本二十
六聖人列聖
150周年
(2012
年)を機に

昨年6月、カトリック中
央協議会が発行した『日
本二十六聖人長崎への道
巡礼マップ』。本の中で

「巡礼へのおすすしめ」を
記している本田さんは、
京都・長崎間約1000
kmの道を徒歩で巡礼する
先駆者ともいえる。

1974年、新聞の連
載小説『太閤秀吉』(舟
橋聖一著)に描かれた二
十六聖人の挿絵に引き込
まれ、読みふけた。そ
の後、故結城了悟神父の

長崎への道の先駆者

ナガミチ事務局 本田周司さん

著書『長崎への道』に出
会い、徒歩で巡礼する集
い、「長崎への道(通称・
ナガミチ)」巡礼の大き
な指針、道標を得る。ナ
ガミチ巡礼の調査前は、
日本古来・伝統の道を体
験したいという信念で四
国88カ所1400kmの道
を歩く修行の旅へ。この
旅は教訓の場となり、特
に『同行二人』の教え(お
遍路がお大師さまと二人
連れという意味)は心に

深く刻み込まれました」
そして長崎への道の準
備のために1976年、
49歳の早春、西陣教会(京
都市)を出発。道中、「ど
うして歩いているの？」
と聞かれたこともあっ
た。「先を急いでいても、
26人の殉教の史実を話す
べきだった」と振り返
る。約25日かけて西坂に
到着。涙が込み上げた。
「この時、二十六聖人方と
素直にじっくりお話がで
る。約25日かけて西坂に
到着。涙が込み上げた。
「この時、二十六聖人方と
素直にじっくりお話がで



て、2010年までで64
人が受洗。ナガミチの後
継者がいないという現実
問題もあるが、会員31
3人、年4回発行の機関
誌は138号を数え、巡
礼体験者の心は皆、熱い。
「世界三大巡礼(サン
チャゴ、イスラエル、ロー
マ)に次いで、この『長
崎への道』がキリスト四
大巡礼として人々に知ら
れることを願ひ、努力を
重ね、誰でも歩けるナガ
ミチを目指して、神様と
二十六聖人に祈ります」
ナガミチを11回完歩。
元神戸・六甲学院音楽教
諭。大阪・吹田教会。86歳。

大槌でクリスマス会

換、ビンゴ大会。

12月1日から25日にか
け、大槌町被災者の仮設
集会所など31カ所で行
うぞう。生活用品やお菓
子、食品、魚セット、全
参加者全員の着ぐる
み撮影会に始まり、豪華
な食事会、プレゼント交

「大槌のみなさ
んを応援する九
州各地から、そして全
国からの贈り物です。ど
うぞう」生活用品やお菓
子、食品、魚セット、全
参加者全員の着ぐる
み撮影会に始まり、豪華
な食事会、プレゼント交

姿に、毎回安堵感に満た
されます。これも皆様か
らのご支援の賜物と、ス
タッフ一同より、ここ
から感謝申し上げます。
昨年からは新ベースへ
の移転作業を行い、町内
のあいさつ回りを終え、
明けより活動再開です。
民家改造のベース規模は
縮小されますが、ボラン
ティアの皆さんと家庭的
な雰囲気のもと活動継続
に努めます。引き続きお
祈りご支援をお願いいた
します。九州・全国から
の支援物資56件・寄付金
は58件379万7,45
2円でした)

「大槌のみなさ
んを応援する九
州各地から、そして全
国からの贈り物です。ど
うぞう」生活用品やお菓
子、食品、魚セット、全
参加者全員の着ぐる
み撮影会に始まり、豪華
な食事会、プレゼント交

「大槌のみなさ
んを応援する九
州各地から、そして全
国からの贈り物です。ど
うぞう」生活用品やお菓
子、食品、魚セット、全
参加者全員の着ぐる
み撮影会に始まり、豪華
な食事会、プレゼント交

魚は水の中に住む

魚は、水をもって、我がいのちとし、すみ
かとしている。鳥は、空をもって我がいの
ちとし、すみかとしている。

地上にある生き物は、どれもがそれぞれ
のすみかを持ち、その境界に収まっている。
魚は水を出てはならない。水を出たら、
たちまちいのちを失う。鳥と同じ、空を
出たら、いのちを失う。こう道元は説いて
いる。

「主よ、どこにお住まいですか」(ヨハネ
1・38)。イエスのいのちやすみかに触れ
ようとして、ヨハネの弟子たちはイエスに
近づいていく。イエスが持つ、高い境界に
触れてみたかったのである。

一冊の本とペン

「慈悲深く、慈愛に満ちたアツラーのみ名
今年もわたしたちの課題なのではないか。

みことばにふれて103

山川 忠神父
(カトリックセンター)



「マララは教育を受ける権利が、分け隔
てなく、すべての人に与えられるように
と願う。」
一冊の本があれば、教えを書き記す一

「わたしは訴えます。自分自身のた
めではありません。すべての少女のた
めです」
マララは教育を受ける権利が、分け隔
てなく、すべての人に与えられるように
と願う。」
一冊の本があれば、教えを書き記す一

大食漢、大酒飲み

これが(マタイ11・19)イエスの呼び
名だったようだ。決していい呼び名で
はない。

罪と死が行き渡る、みなの中に腰を
おろせば、よくは言われまい。悪と見
なされ、処刑されよう。銃があれば、マ
ララのように撃たれたにちがいない。
イエスが願っていたことは何か。それ
は罪と死の中から、復活のいのちをつ
くり出そうというものだった。

スピーチの中で、マララは触れてい
る。わたしを狙撃したタリバンを赦す
慈悲の心は、キリストから学んだものだ
し、父や母から学んだ赦しのこころです
と。

短 信

〔待降節のおさげ〕

●長与小教区(村中司
主任神父)の教会学校で
は、イエスさまを心から
迎えることができるよう
に、毎年待降節中、子ども
たちによって小さな犠牲
がささげられている。今
回は、子ども聖歌の集い
(昨年12月8日開催)へ
の参加もおさげとし
た。優秀賞に選ばれ、受
け取った副賞をどうする
か皆で考えた。そして、
毎日のおさげとして集
めた献金と、この副賞と
長与みかんを一緒に、
12月23日、小長井にある
みさかえの園にプレゼン
トした。

13時、15時、17時、19時。
長崎南地区司祭団主催。
●教区シノドス特別企画
研修会「キリスト教的価
値観によるいのちと性
子どもにどのようにつ
えたらよいのか」2月
11日(火)10時～15時、カ
トリックセンター。講師・
松本信愛神父(大阪教区
司祭)。参加費無料。教
区家庭特別委員会主催。
※昼食は各自で準備。
●日本の信徒発見150
周年記念前年ミサ 3月
16日(日)14時。浦上教会。
長崎中地区評議会主催。
●信徒発見ミサ 3月17
日(月)19時。大浦天主堂。

感 謝

― 寄 付 ―

長崎カトリック神学院
●匿名様(稲佐)

― 香典返 ―

長崎カトリック神学院
●有川オトメ様(小ヶ倉)
故ヨゼフ有川鶴次様
右の方々からご寄付・ご
芳志を賜りました。お礼
とご報告を申し上げます。

いごとう園

●二十六聖人殉教記念ミ
サ 2月2日(日)14時、西坂
公園(雨天時は中町教会)。
●西坂・聖フィリッポ教
会での二十六聖人殉教
「記念ミサとゆるしの秘
跡」2月5日(水)二十六
聖人の祝日。9時、11時、

マイホームの美容と健康に！

(有) 山 川 塗 装

有限責任中間法人 全国住宅火災防止協会
長崎県建物営繕工事業協同組合理事

代表取締役 ベトロ 山川 進

佐世保市原分町1715-5
TEL(0956)49-3330 FAX(0956)49-8729

ユウメイ 有明ホテル

雲仙の旅情やさしいおもてなし
殉教者の誓いの地
島原半島の巡礼ご宿泊に
どうぞご利用くださいませ。

社長 アントニオ 栗原盾夫
女将 ルチア 栗原トシエ

お問い合わせ
ご予約は
Tel 0957-73-3206
Fax 0957-73-2254
E-mail info@yumei-hotel.co.jp
URL http://www.yumei-hotel.co.jp

タンスの中身は入れたまま
責任ある安全運送!!
(見積り無料・荷造り発送
も致します)

貨物保険有り
・一般引越
・荒ゴミ捨て
・学生引越
・小荷物
・遠距離
・ピアノ運搬

24時間営業・年中無休
受付時間 7:00～22:00

水 浦 運 送

シモン 水 浦 幹 雄
長崎市上野町12-3
TEL(095)847-7151
844-1420

なが さき せき ちよう
石 碑
納 骨 堂
墓地工事
墓地分譲
(高尾・本他)

ヨゼフ 岩永 博明

☎(095)862-2469

長崎市梁川町6-17 岩永ビル



主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式

(有) 栄光式典社

代表取締役 ヨハネ 西村 勇二

長崎市辻町7-18 TEL(095)844-4011

24時間営業 FAX(095)843-9896

交通誘導警備 常駐警備 イベント警備

(有) 小 田 警 備 保 障

警 備 員 募 集 !

電話 095-856-6524 FAX 095-856-6523

長崎県横尾3丁目31-15 代表取締役 パウロ 小田 睦